

土地改良記念碑探訪

宮之城町:二渡水田碑(ふたわたりすいでんひ)

二渡水田碑は、享保14年から16年まで(1729~1731)3年がかりで宮之城島津家が行ったといわれる用水路の開削の記念碑である。この用水路の延長は5.7km、幅1.2mで約100haの水田をかんがいした。また、11ヶ所(1800m)の隧道が掘削され、なかには900mに達するものがあり、外から光が届かないため油火をともしたり、処々に窓をあけ明かり取りにするなどして岩屑をとりだしたそうである。また、工事人夫には、土一升に対し錢一升をあたえたともいわれている。

この「二渡水田碑」は、「島津徳源公頌徳之碑」と共に昭和18年(1943年)に建てられた。この徳源公とは宮之城島津家第四代領主島津久通のことで、この開田以前の領主であるが、金山の開発益金による国分・高山新田開発等大きな功績を残した。



現在この用水路、隧道は宮之城町土地改良区で維持管理されており、ホタルの飛び交う水路として地域に親しまれている。

- ◇ 参考文献:「鹿児島土地改良記念碑」より抜粋
 - ◇ 発行:鹿児島県土地改良事業団体連合会
 - ◇ 発行日:平成元年3月30日
-